



クマさん会山行レポート鳥海山・月山（第3編）

2022年8月5日（金）-6日（土）

## 鳥海山・月山のお花と最終日

～Report 写真提供 by 服部・中島・根岸・吉松

山形の名峰（鳥海山と月山）を2泊3日で訪れました。

魅力は、日本海からの雪に育まれた雪渓（鳥海山の心字雪：レポート第2編）と見事な雪田植物にあると企画書に書きましたが、山行レポート第3編では服部さん・中島さんが纏めてくれた『鳥海山・月山のお花』を紹介し、花にまつわるエピソードとお世話になった月山のお宿を紹介して、月山トレッキングを楽しんだ最終日を纏めたいと思います。

### 1. 鳥海山・月山のお花

#### 2022年8月5日（金）鳥海山

服部さん・中島さんより： ネット調べの為、間違っていたらゴメンなさい！



ミヤマアキノキリンソウ



ハクサンフウロ



ベニバナイチゴ？



ハクサンチドリ



ヨツバヒヨドリ



ウゴザミ？



ミヤマウイキョウ



カラマツソウ



イワイチョウ



ヒナザクラ



イワイチョウ



イワイチョウ



チングルマ



チングルマ綿毛



イワカガミ



ムジカリ



ハクサンシャジン



ニッコウキスゲ



ヤマハハコ



トウゲブキ（黄色）



ナナカマド



ハクサンフウロ



マルバシモッケ



ハリブキ



ベニバナイチゴ？



シロバナトウチソウ



ハウサンフウロ



ヒナザクラ



コバイケイソウ



ヨツバシオガマ



白 シラネニンジン？



ミヤマリンドウ？



オンタデ



ミヤマキンバイ



コメバツガザクラ？



ミヤマアキノキリンソ  
ウ？



チョウカイフスマ



チョウカイアザミ



イワギキョウ？



イワブクロ

「チョウカイ」の名がついた固有種

解説：「チョウカイ」と名前の付いた花は、**チョウカイフスマ**と**チョウカイアザミ**の2種のようなものである。**チョウカイアザミ**は、今回登った「湯の台口コース（第1編のコース図参照）」では八丁坂やアザミ坂で多く見られた。高さは50 cmから150 cmになり、紅色の頭花を下向きに咲かせていた。

「**チョウカイフスマ**」は、頂上付近の神社（御室）にあるとの説明だが、花弁は5個で白色、葉が厚い。雌阿寒フスマの変種とある。花は確認できなかった。写真はWikipedia(2022年8月19日)から拝借した。



## 2022年8月6日(土) 月山

服部さん・中島さんより ネット調べの為、間違っていたらゴメンなさい！



ヨツバシオガマ



モミジカラマツ



キンコウカ



ヨツバシオガマ



イワイチョウ



マルバシモツケ



ヒナザクラ



ニッコウキスゲ



キンコウカ



シロバナニガナ



コバイケイソウ？



チングルマ



ミヤマリンドウ



イワカガミ



ミヤマアキノキリンソウ



白 クロヅル



エゾシオガマ



ミヤマコウゾリナ？  
タンポポ？



白いエゾシオガマと  
濃いピンク系の  
トモエシオガマの仲  
間？



ミヤマウツボグサ？  
タテヤマウツボグサ？



ミヤマホツツジ？



ヨツバシオガマ



キンコウカ



アカバナトウチソウ



イワイチョウ



ハクサンイチゲ？

## 2. 花のお話：

### 1) ニッコウキスゲ：「和名：禅庭花（ゼンテイカ）」

朝に開花すると夕方にはしぼんでしまうユリ科の一日花です。月山の花期は7月で、盛夏には鳥海山の雪田脇斜面へと咲き移るとありました。  
確かに、鳥海山のニッコウキスゲは見ごろだった様子である。



鳥海山下山時のニッコウキスゲ  
中島さん撮影：5日16時19分  
雪渓横の斜面にて：

## 2) チングルマの花と綿毛が同時に見えた：

花を纏めて貰った中島さんに、一番印象に残った花は何？と尋ねた時、一番の答えがこれ。 いずれも中島さん撮影 5日6時30分頃



## 3) ハクサンイチゲ？ 花期も長いため、目につく花とあったが、素人には区別がつかぬ？

服部さんは、花の写真の最後に「？」を付けてくれた。上のチングルマとよく似ている。違いを調べると「ハクサンイチゲの花びら（正式には萼片）は尖っていて、チングルマの花びらは丸い。」確かに花びらが尖っている。



左は、クマさん会 2009 年 8 月鳥海・月山ツアーで撮影されたハクサンイチゲである。

今回を契機に勉強することを条件に、「？」付きでのレポートを許してもらいたい。

因みに、ハクサンと名が付く花が多いが、「昔から宗教登山として登られてきた登山道があり、案内人もいて比較的に入山しやすい環境にあった白山。そのため植物研究者たちは白山で植物の調査を開始した。そこで発見したものは「ハクサン〇〇」と名付けられ、その後もその名称が浸透している」と有った。

### 3. 月山の宿と月山トレッキング

「志津温泉月山の宿かしわや」には、大変親切にいただいた。次の機会も活用してあげて欲しい。まず予約の時に、月山登山者コースを勧めてくれた。12,700 円で、1 泊 2 食 + 昼おにぎり、リフト券（往復 1100 円）、帰り入浴権利付きである。

さらに地元西川町の月山これよろキャンペインを受け付けてくれて、各人 3000 円の割引を付けてくれた。コロナワクチン 3 回接種証明と身分証明の提示が条件であった。

我々は、更に「親切に甘えて」しまった。

一つ目は、予約時に 17 時半と伝えていた到着予定時間を何と 3 時間以上遅い到着にして、19 時には夕食スタートして欲しいとの要望を拝み倒して、到着後すぐ汗を流して 21 時半過ぎからにして貰い、ビール迄出して貰った。19 時に鳥海山駐車場をスタートして、ナビ担当の根岸が何度か状況を宿に連絡して拝み倒した。二つ目は、月山の下山後、お風呂に入り荷物整理して、1 階食堂を借りて昼おにぎりを頂いた。



5 日 21 時 30 分からの夕食、ビール 4 本。心づくしの食事の中に「宿の裏で種から育てた【ニッコウキスゲのおひたし】」があった。ビールをあまり飲まない服部さんが絶賛。





6 日朝は、全員合意で 30 分程遅い朝食にして貰った。

当日朝迄、帰りの列車「山形新幹線」が予定通り動くか不明であり、動かない場合は在来線で仙台まで 1 時間余り余計にかかるリスクがあった。

また、全員の体力を考えて、「花を目当てのトレッキング（頂上は強いて目指さない）」に切り替える案が有力だった。



それでも、リフトが動く 8 時過ぎには「月山の宿かしわや」を出発した。車・徒歩 30 分でペアリフト乗り場へ到着した。



天候は、上々だが 4 人で協議の結果、牛首まで行き姥が岳から、下りリフトに乗るコースに切り替えた。花は十分楽しめるようである。



根岸独りごと：リフト降り場に、姥が岳休憩所があり、その中に月山神社の遙拝所が設置されていた。山頂に行かずにお札が買えた。2009 年 8 月のクマさん会レポートにも記述があった。



月山の登山道は、整備され快適であった。



雪渓も所々にあった。



11 時 20 分姥ヶ岳山頂に到着した。リフトで上（1510m）に上がり、約 2 時間の散策である。その間沢山の花々に出会った。因みに、牛首は 1729m であった。本篇の月山のお花をご参照ください。

**根岸独り言：**だいが疲れている。実は「2 週間前に新調した中近両用メガネが、遠くは良いのだが下り坂で地面が二重に見えて苦しんだ」、長距離を吉松さんをお願いし、宿までは私が担当し何時もより慎重に運転した。それが幸いした。帰り道のカーブで、対向車がはみだし運転して危うくぶつかりそうになったが、ブレーキが効いて直前で止まった。クワバラ、クワバラ。



背景の黄色い花は、キンコウカの群生である。遠景も美しい。



ほどなくリフト乗り場に着き、下りリフトに搭乗し下山した。

下山後、昨夜からお世話になっていた「月山の宿かしわや」に再度お邪魔し、お風呂に入り荷物を整理し、1階食堂を借りて昼用のおにぎりを食べた。



写真は山葡萄ジュースだが、宿の方が自家製の物を振舞ってくれた。なんと、ありがたい事か。この写真にはもう一つ忘れがたい物が写っている。

（料金投入口）故障中の自動販売機だ。お世話になったので、水を買おうとすると、外で買ってくださいと言われた。昼には、鍵を開けてペットボトルを分けて貰ったらしい。

お世話になって申し訳なかったので、「月山黒米うどんと、月山そば極太」をお土産に購入した。

## 4. それぞれの帰郷と旅の終わりに

14 時にお世話になった月山の宿かしわやを出発して、山形駅に向かった。

吉松さんの運転で、順調にドライブして 15 時過ぎに山形駅西口のレンタカーショップで、無事車を返却した。走行距離 366 km、ガソリン 21L、17.42 km/L 山道を走ったにしては燃費が良かった。



吉松さん、中島さん、根岸の 3 名は、15 時 42 分発の「つばさ 148 号」に飛び乗った。



旅のお供は、生ビール。

つまみは、メンバーそれぞれからの提供品。

山形新幹線は、東京まで 2 時間 50 分で到着する。



服部さん、ORIGINAL スケジュールの17時05分発の「つばさ154号」を選択した。  
折から山形市では、花笠祭りを開催中。  
街の雰囲気を楽しみに、市内へ向かった



花笠祭りパレードで踊る衣装で集合場所に急ぐ人たちがいた。



8月3日から4日にかけて山形県南部を中心に大雨に見舞われた。  
クマさん会の今年の山行は、雨に祟られないを信じて、旅行を決行して、何とか鳥海山山頂までたどり着いたが、雄大な鳥海山の下り道で想定以上の時間が掛かり、月山の宿に到着が遅れ迷惑を掛けた。反省点である。  
参加の皆さんのご協力・頑張りに敬意を表したい。

今回、一番に参加表明をされた塩瀬さんが、ご家族のコロナ罹患で濃厚接触者になり、数日前に参加を断念された。  
次回山行でご一緒するのを楽しみにしています。  
レポート： 中島・服部・根岸（編集）